紫藤通信

発行所
山村国際高等学校
坂戸市千代田1-2-23
☎ 049-281-0221

印刷所
有限会社 須賀印刷

http://www.yamamura-kokusai.ed.jp

第六十四回 卒業式

冬の寒さも和らぎ始めた三月三日、平成二十六年度第六十四回卒業式が挙行された。卒業生一九〇名の呼名が終わると、校長先生により式辞が述べられた。今日卒業する全員が可能性を持っている。進む道は皆違うが、その可能性を最大限に伸ばし、それぞれの進路で活躍してほしいと述べられた。続く理事長による卒業生を送る言葉では、今年の干支である「未」についてお話しされた。羊は干支では「未」と記述する。「未」は未熟の「未」であり、未完成の「未」でもある。山道を一歩一歩登るように、階段を一段一段上がるように、自分自身の完成を目指して欲しいと述べられた。

続く卒業生感謝の言葉では、三年六組の高野祐二君が三年間の思い出と、両親への想いを伝えた。いつも優しく、時に厳しく見守ってくれたご両親に、感謝の言葉を伝えるとともに、進学後の更なる飛躍を約束した。

「菜種梅雨」の降る中始まった卒業式であったが、卒業生退場の頃になると雨は止み、サンクンガーデンにて集合写真の撮影会が行われた。卒業生たちは、充実した笑顔と感動の涙とともに仲間と学校で過ごす最後の思い出を写真に納め、学校を後にした。

●各賞

山村学園理事長賞　三年六組　高野祐二
学校長賞　三年五組　岡田小雪
後援会長賞　三年一組　松尾俊
国際文化賞　三年四組　進藤海紀
山村要二記念賞　三年三組　小川広記
山村ふみよ記念賞　三年四組　佐藤陽妃
日本私立中学高等学校連合会会長賞　三年六組　外川智之
埼玉県私立中学高等学校協会会長賞　三年五組　篠田知希
埼玉県私立小学校中学高等学校保護者会連合会会長賞　三年六組　須田千愛紀
産業教育振興中央会会長賞　三年三組　堀内汰門
体育協会会長賞　三年四組　村田翔吾
山村学園創立者賞　三年一組　林咲季
三年二組　紫藤昌男様

蟷螂

今年一月に亡くなった平井和正は、作品を電子出版で発表した日本で最初の作家と言われているが、それには理由がある。▲デビュー間もない頃、大手出版社から単行本を刊行した際に、編集者が文章や語句を勝手に書き換える改ざんを多量に行い、それを知った彼は激怒し、出版物を回収、出版社には新聞に謝罪文を掲載させた。版元を敵に回した結果、「干された」状態になり、小説の注文は一切途絶え、漫画原作の仕事で糊口をしのいだ。▲その後『幻魔大戦』等のヒットが話題になったが、以降の作品でも編集者が自主規制の「言葉狩り」による校正を強いることに作家として耐えられず、相次いで既存の出版社と絶縁し、自由な表現の可能な電子出版に作品発表の場を移して晩年に至った。▲筒井康隆のかつての断筆宣言でも話題になったが、現代では作家が思い通りの表現で書いた文章のそのままの発表は不可能なようである。▲昨年末、夏目漱石の原稿そのまま、書き間違いの部分までも再現した『こころ』が刊行された。二年生が授業で扱う文庫本と比較してみるのも面白い。

送別会

数日ぶりに穏やかに晴れた二月二十一日、三年生の卒業を祝う送別会が行われた。軽音楽部の軽快な演奏から始まり、合計七団体による発表が行われた。ダンス部、バトン部、よさこい部による迫力あるステージが終わると、続いてプロジェクターを使用した放送部の企画に移った。放送部は例年、三年生が入学した当初から撮り溜めていた映像を編集し、放映する。入学式に臨む初々しい三年前の姿から始まり、球技大会や体育祭、文化祭の様子が映し出されると、三年生の多くの生徒から歓声が上がった。

三年生が最も期待を寄せる企画が三年生教員によるサプライズ企画である。例年、歌やダンスの発表などが行われるが、今年の企画は昨年話題になった出来事や流行したダンスのパロディーを三年生の先生方が演じた映像の発表であった。普段見ることのできない先生方の表情に、生徒たちは大喜びであった。

最後の企画は生徒会による各部活の一、二年生から三年生に宛てたメッセージの映像である。苦楽を共にした後輩からの暖かいメッセージに涙を流す姿も見られた。

卒業式を十日後に控えた三年生は、学校から離れることを実感し、山村国際高校で過ごした三年間を改めて振り返る機会となった。

卒業作品展

三年ファッションコース

三年生ファッションデザインコースによる卒業作品展が、二月十九日・二十日に実施された。ドレスメーキングでは、スーツ・コートその他の作品が発表された。また、家庭演習の民族衣装の研究では、ひとつの国を選択し、研究をし衣装の製作に取り組んだ。試行錯誤の結果、完成させた作品はそれぞれ満足のいくものに仕上がった。

和裁では、浴衣・甚平の製作、着付けもしっかり覚え、この夏には、夏祭りにデビューできそうである。デザイン画は個性的で、ブランド企画にも挑戦している。今年度は、被服部のウェディングドレス三体も発表に加わった。

過去にない十名という少人数であるが、結束も固く立派に卒業作品展を終了させることができた。

御協力いただいた先生方、生徒の皆さん、本当にありがとうございました。

芸術鑑賞会

平成二十六年十一月二十二日、坂戸文化会館において芸術鑑賞会が催された。今年度は「ＺＥＮ男組」による和太鼓の演奏を鑑賞した。「ＺＥＮ男組」は石井さん、加藤さん、横山さん、川島さんの四人組グループで、和太鼓を中心とした楽器の演奏をされている。学校の芸術鑑賞会でも多く公演されており、日本の伝統芸能である和太鼓を若い世代にも広めようと、現代的なアレンジを加えたステージを展開されている。

普段聞き慣れない和太鼓の演奏だが、パワフルなステージに生徒たちは圧倒された様子だった。生徒参加のコーナーでは、会場全体が三つのパートに別れ、一つの演奏を作り上げた。ステージに上がった生徒達は、最初は戸惑った様子が見られたが、ＺＥＮの皆さんのアドバイスを受けながら、他の生徒たちを引っ張っていこうと奮闘していた。

全身の力をバチに込めた力強い演奏は、多くの生徒達の心を動かした。

H26年度

弁論・スピーチ・レシテーションコンテスト

毎年国語科恒例の伝統行事である弁論大会が、十一月二十九日（土曜日）に本校体育館にて、英語科のスピーチコンテストと同日に行われました。

弁論大会の原稿は毎年国語科夏休みの課題として全校生徒に課せられ、各担任の先生に数名選出していただき、さらにその選出されたものの中から国語科によって最終選考が行われます。本年度の代表は、一年生四名、二年生三名、三年生二名の計九名によって競われました。内容も多岐にわたり、部活動、ゆるキャラ、キラキラネーム、過剰防衛、震災、命、ハッピーエンドの見つけ方、伝わること、争い、といったさまざまな、個人的、社会的な問題についての弁論が行われました。

各出場者は数週間に及ぶ練習（かなりキツい練習です）を乗り越え、当日の本番では見事に自己主張を演台で堂々と発表しました。弁論大会は、自分の考えを他の弁論者と同じステージに立ち、自分の考えと他の人との考えの差を発見していくものです。そしてその発表の技術を競い合います。それゆえ弁論の内容、伝達度などを総合的に審査員の先生方に判断していただき、順位を決定していただいています。見事各賞に輝いたもの、今回は一歩賞に届かなかったもの、さまざまな思いが交錯した弁論大会になったのではなかったかと思います。しかしながら、その努力の結果は出場者全員のこころの奥にしっかりと刻印されたものと思います。

来年、「我こそは」と思う人は是非とも頑張って夏休みに原稿を書いてみてください。

What wonderful speeches we had this year! Exploring friendship, language learning, imagination, health risks, multiculturalism and human relationships, the speeches were diverse, full of energy and passion, born of the fertile imaginations and deep held beliefs of Yamamura Kokusai students.

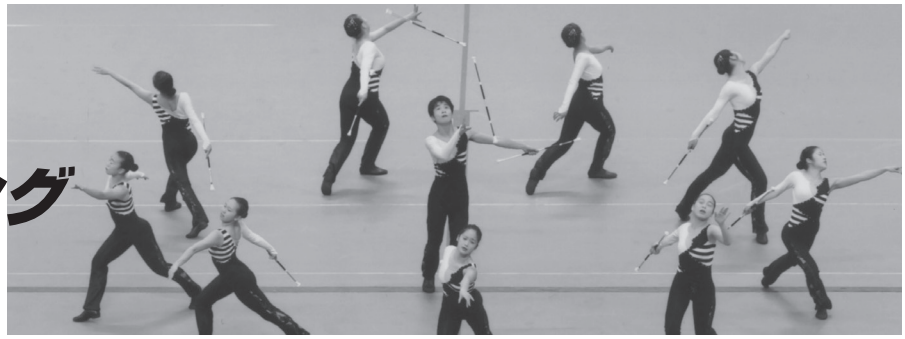
The first prize went to Rena Yonekura (2-5) for her well memorized speech and graphic presentation on the dangers of smoking. Second prize went to Luna Kobayashi (2-6), comparing Japanese and Thai schools in crystal clear English. Third prize went to Koki Samukawa (2-5), with a beautifully tailored speech on the power of imagination.

Sho Obinata (2-5) and Daichi Fujikura (3-4) brought in their own experiences to talk about education revision. Minami Hashizume (3-5) and Misaki Shinozawa (1-6) delivered unique and personal speeches on social interaction.

The recitation contest was won by Fuyuka Kanno (1-7), who filled her recitation with emotion and understanding. Runners up were Yui Ogino (1-1), Ryuma Masuda(1-2), Hiroshi Sato (1-3), Shodai Kubo (1-4), Irin Shen (1-6), Saki Suzuki(1-6) and Aoi Negami (1-8).

There were seven speeches and eight recitations, making it the largest in recent years.

18度目の舞 バトントワーリング全国大会



十八年連続出場の全国の舞台で大技を連発。過去最強チームの演技は惜しくも“銀”

十二月十三日(土)、第四十二回バトントワーリング全国大会が「幕張メッセ」において開催された。

今年の作品は技のバリエーションによって次々と変化していく場面展開が特徴。その中での見せ場は二十ｍのロングトスによるバトンの交換である。超高校級の新城真弥さんと桐ヶ窪亮太君のダブル技、三バトン三スピンの大技に観衆からは大歓声が沸き起こった。曲奏はロックライスト。力強いボーカルに合わせたユニゾン、そこから一転してニストリングス（弾楽器）系へと展開。この曲に合わせての独特な振り付け、要所で決めるポーズは審査員からも高い評価を受けた。

夏以降、本格的に取り組み始め、チームでこの演技に挑み続けた。怪我を克服しながら、また三年生は三年連続の「金賞」をねらい、受験勉強とともに全国をめざした。大技が多いため、失敗すると減点が大きいというリスクを背負いながら、全員で練習に取り組んだ。負けないチーム作りはやはり伝統で培われるものであろう。休日、多くの卒業生が後輩の指導に来校した。その真摯な指導と励ましによってチーム力は高まる。全国ではドロップ八本。県大会よりも、関東大会よりも多く、結果は「銀賞」に終わったが、この演技をやりきったことは大きな自信につながったに違いない。

二月十四・十五日「全日本選手権関東支部大会」において、二年生の新城真弥さんと一年生の桐ヶ窪亮太君が三月の全日本選手権大会への出場権を獲得した。

生物部活動報告

生物部は食材や精油の抗菌効果を研究して、これらを多くの大会で発表している。昨年の活動は、前回の紫藤通信（第六十八号）に載せて頂いたので、ここでは二月と三月の活動について報告する。

二月十四日は、「平成二十六年度理科教育研究発表会」（埼玉県理化教育研究会主催）が埼玉大学で催された。この発表会は、埼玉の県立高校（※ＳＳＨを含む）を中心に、参加生徒数が四百名を超える盛大な催しである。本校生物部は、生物部会にポスターセッション（三研究）とオーラルセッション（パワーポイントでの発表で一研究）に参加した。午前のポスターセッションは、全体で一一六の演題があり、本校の参加した生物部会では二十五の発表があった。この中で生物部のポスターは好評で、セッション中は人だかりができていた。一方、午後のオーラルセッションでは、全体で六十一の演題があり、本校は生物部会（植物）の十四演題の中で九番目に登壇した。セッション後の教授の質疑にも部員は物怖じせず応答していた。結果は「入賞」したが、県代表は残念ながら逃してしまった。しかし今月は、第十二回全国高校生理科・科学論文大賞（神奈川大学主催）に応募した論文が、昨年に引き続き二度目の「優秀賞」（全国第二位）と、「団体奨励賞」を併せて受賞した。今月十五日の授賞式では、生物部のためにご用意頂いた晴れの舞台で、来賓の方やＳＳＨを面前にオーラルセッションを披露した（この論文は、五月に日刊工業新聞社より刊行される）。そして今月二十七日には、「Jr.農芸化学会」（日本農芸化学会主催）が岡山大学にて催される。この大会は、日本最大級の生化学者の学会で、教授からの質問レベルも高く、部員の力量が試される。しかし、発表会で得た自信と、特別賞の受賞で慶應大ＳＦＣへの推薦も叶う事実を糧として、私立山村国際生物部は、県立ＳＳＨに怯むことなく挑戦を続けたい。

理科教育研究発表会でのポスターセッションの様子。
SSH を凌駕する戦略は、クールなパワポと鮮やかなポスター。
止めは小型展示台と部員が持つタブレット。
勿論、卓出したセッションは言うまでもない

※スーパーサイエンスハイスクールの略称。
理数科に特化したクラスを持ち
全国に約２００校ある。

【進路状況】

平成二十六年度の進路状況は二月二十四日現在、大学一二三、短期大学十六、専門学校六十三、就職六となっている。大学合格校は、慶應義塾、法政、立教、成蹊、成城などの有名私立大学に合格者が出ている。短期大学進学者のうち四名が山村学園短期大学への進学を決めた。専門学校進学者は、男子生徒の増加を反映し、自動車関係や実務系の学校を選択した者が多くみられた。

【AO入試】

AO入試（アドミッションズ・オフィス入試）は出願者の人物像を学校側の求める学生像（アドミッション・ポリシー）と照らし合わせて合否を決める入試方法で近年多くの学校で実施されている。審査は、「調査書」「推薦書（特別活動の実績など）」「志望理由書」「活動報告書」などについて行われる。自己アピールできるものがあれば利用価値が高い入試方法であるといえよう。

一方で、AO入試だからすぐに合格できると考えている者が多く見受けられるが、実際はそれほど簡単ではない。欠席日数が二十日を超えている、遅刻日数が極端に多い、また成績が著しく低い場合は不合格になる場合が多い。今年度は、十名の不合格者がでている。在学生は、日常の生活習慣の確立が不可欠である。

合格者の内、大学二十三名、短大六名、専門学校四十名がAO入試を利用した。

【推薦入試】

本校では、学校推薦基準を評定平均値三・〇以上、三年間の欠席日数を二十日以内としている。九月上旬に校内選考会議を実施し審査を通過した者が推薦入試の受験資格を得る。基準を満たしていると同時に在学中の諸活動や資格・検定の取得に意欲的だった者は合格率も高くなっている。推薦入試を考えている者は部活動をはじめとする諸活動に積極的に取り組んでいただきたい。

指定校推薦入試は、校内基準に併せ、独自の基準を定めている。平成二十六年度の本校の指定校件数は、大学二六九件、短大五十一件、専門学校一六三件にのぼった。

指定校の学校名が知りたい者は、進路資料室に来室されることをお勧めする。

推薦入試の合格者は、大学四六名、短大七名、専門学校十三名であった。

【センター試験】

国公立大をはじめ、私大（センター利用入試）を受験する場合に不可欠な最初の関門である大学入試センター試験は、一月十七・十八日に実施された。本年度の全国の志願者数は五五九、一三二人で、前年より一、五四十人減少した。

本校からは、四八名が受験した。センター試験は出題される多くの問題が基本～標準レベルである。このため、一般的な国公立大なら七～八割ぐらい、有名大学になると九割近くとる必要がある。

大学を志望している諸君は、センター試験を意識して日々の授業や受験勉強に取り組んでもらいたい。

【一般入試】

一般入試は、受験方法の多様化により一校につき複数の受験機会が与えられるようになった。学部ごとに行う個別試験、学部を超えて受験できる全学部入試をはじめ、従来の三教科（国語、地理歴史・公民または数学、外国語）入試をA方式とし、別にB方式（小論文重視）、C方式（数学重視）、さらにセンター試験利用入試など、複数の入試を設ける複線入試が多くの大学で取り入れられている。

今年度の受験者も志望大学を絞り込み、複線入試を利用し受験している場合が多くみられた。

【就職】

厚生労働、文部科学両省が一月二十日㈫、発表したところによると「景気の緩やかな回復や人手不足などを受けた企業の採用意欲の高まりを反映し、二〇一五年春卒業予定の大学生と高校生の就職内定率が大きく改善している。

高校生の就職内定率（十三年十一月末時点）は、前年同期比三・四ポイント上昇の七十九・二％となり、四年連続で改善した。

本校の内定率は、八十五・七％で、希望者七名中六名が内定を得ている。

就職対策として有効なことは、通常の授業をしっかりと受けることである。就職試験の際に一般常識の筆記試験は二年までの授業内容がほとんど出題の対象になることによる。さらに志望動機や作文などの対策として日頃から新聞や読書で良質の文章にふれておくことが望まれる。

公務員志望者は、公務員模擬試験の受験が不可欠である。また、早期に対策をとることが合格に結びつくことは言うまでもない。

【学校全体の取り組み】

本年度は、放課後セミナー二九講座を開講、夏期校内補習、冬期校内補習の開講、夏季校内補習は四十講座が展開された。

職業や上級学校の講義を受けるキャリアセミナーは六回実施。（保育・美容・公務員対策・栄養調理・スポーツ・自動車）進路学習会は、七月に三年生が坂戸グランドホテルを会場に進路相談会を実施した。一、二年生は校内で職業別・分野別の進路学習会を大学をはじめとする学校に来校いただき講義を受けた。また、特別進学コースの生徒は、法政大学・立教大学・東洋大学・工学院大学の見学会を実施し、大学生活、受験や学習方法について説明を受けた。十二月には、一年は分野・系統別の学習会を実施、進路に対する意識を高めた。また、三月には、一・二年生を対象に約二十校の上級学校を招き、個別相談会を実施した。

語学研修in ブリティッシュヒルズ

十二月二十六日～二十八日の三日間、福島県にあるブリティッシュヒルズへ英語研修に行きました。この研修は英国に留学していると錯覚するほどの素晴らしい施設の中で、英語圏の先生方から生きた英語を学び、英国の生活習慣を身につける絶好の機会になります。

今回は男子三名と女子三名の計六名が参加しました。授業は全て英語で行われます。事前に選択した授業の中で、自分たちの英語力とチャレンジする気持ちを武器に各先生方とコミュニケーションを取り、楽しく三日間を過ごしました。最初の授業では口数が少なく心配しましたが、徐々に環境に慣れて積極的になり、帰る頃には先生方やスタッフと自然に英語でコミュニケーションを取る姿が見られました。

毎年実施していますので、海外に興味があったり海外留学を考えている生徒や自分の英語力を伸ばしたい生徒等に是非とも参加してほしいと思います。

保健室から

あなたは頭痛に悩まされていませんか？今回は頭痛の中で最も患者数が多い「偏頭痛（片頭痛）」についてお話しします。

偏頭痛とは、頭が締め付けられる様な痛み、脈打つ様な痛みが頭の片側や両側あるいは後頭部に現れ、酷い場合は吐き気や嘔吐を伴うものです。原因としては、ストレスやホルモンバランス、天気や季節の変化などが引き金になり頭の血管が過度に拡張する為だと考えられています。

これから進学または社会に出るにあたって偏頭痛と上手く付き合うコツがあります。それは「偏頭痛が来る前兆をつかむ」「常に頭痛薬を携帯しておくこと」です。偏頭痛が来そうだなと感じた時に薬を服用することで偏頭痛のコントロールは可能になります。ただし、むやみに薬を服用すればよいのではありません。偏頭痛の治療薬は「予防」「痛みの緩和」「痛みを止める」といった目的で使い分けをします。服薬について自らで判断せず、一度医師に相談してみるとよいでしょう。

「診断はされていないが多分偏頭痛だと思う」と自己判断をしている生徒もいますが、脳腫瘍など生命に関わる病気が原因の頭痛もあります。偏頭痛の症状がある人はまず一度は病院を受診してみましょう

事務室だより

山﨑　昭男

就学支援金及び授業料軽減補助の処理について、二月二十五日に約一億七千万円の振り込み処理が終りました。皆さまのご協力に感謝します。

来年度も在校生の方には、例年では六月に就学支援金及び授業料軽減補助の資料を、生徒を通して皆さまに届けさせて頂きますので、何とぞよろしくお願い致します。お手元に資料が届かない場合はお気軽に事務室までご連絡下さい。

二十七年度の部活動について剣道部女子は、新一年生を加えメンバー充実し関東大会出場は十分期待できる。

野球部も新コーチを迎え、甲子園への確実なステップを刻む年になるだろう。またソフトバンクに育成指名され入団した堀内君の活躍を期待したい。

陸上部の女子駅伝は熱心な若手教員の指導と校長のサポートで一・二年のうちに関東大会をねらえるチームに成長するだろう。

サッカー部、男子バスケット部も経験豊かなコーチの採用で生徒のやる気をひきだしてくれること確実である。

以上のように部活動は当たり年になりそうな予感がする春である。